

長崎県感染症発生動向調査速報（週報）

2025年第4週 2025年1月20日（月）～2025年1月26日（日）2025年1月30日作成

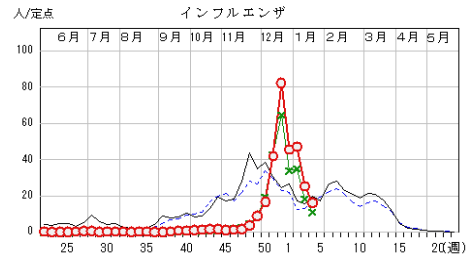
☆定点※報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患）の発生状況

（1）インフルエンザ

第4週の報告数は1130人で、前週より639人少なく、定点当たりの報告数は16.14であった。

年齢別では、10～14歳（205人）、8歳（85人）、30～39歳（72人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県北保健所（32.50）、長崎市保健所（18.82）、佐世保市保健所（17.00）であった。

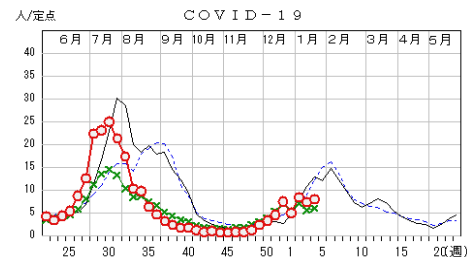


（2）新型コロナウイルス感染症

第4週の報告数は559人で、前週より44人多く、定点当たりの報告数は7.99であった。

年齢別では、10～14歳（63人）、30～39歳（61人）、40～49歳（59人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、上五島保健所（41.33）であった。

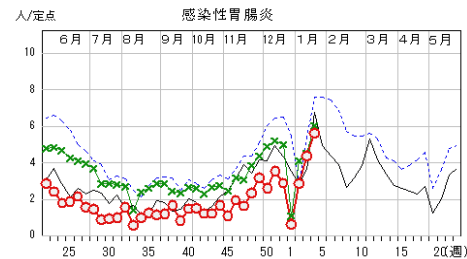


（3）感染性胃腸炎

第4週の報告数は247人で、前週より54人多く、定点当たりの報告数は5.61であった。

年齢別では、1歳（41人）、2歳（40人）、3歳（22人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県南保健所（8.40）、県北保健所（8.33）、佐世保市保健所（8.00）であった。



○ 当年(長崎県) ー 前年(長崎県)
× 当年(全国) ー 前年(全国)

※インフルエンザ/COVID-19定点数：70、小児科定点数：44、眼科定点数：8、基幹定点数：12

☆上位3疾患の概要

【インフルエンザ】

第4週は1,130人の報告があり、定点当たり報告数は16.14でした。2週続けて減少しましたが、警報終息基準値「10」を上回っており、6週続けて警報レベルの報告数となりました。地区別にみると、10保健所のうち、五島を除くすべての地区で警報レベルの報告数となっています。

インフルエンザは、インフルエンザウイルスを原因とする気道感染症です。感染経路は、咳やくしゃみによる飛沫感染と、飛沫等に含まれるウイルスが付着した手指で自分の眼や口、鼻を触ることによる接触感染があります。1日から3日間の潜伏期間のあとに38度以上の発熱、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛、関節痛などの全身症状が突然現れます。これに続いて咳、鼻汁などの上気道炎症が起こり、約1週間で軽快するのが典型的な症状です。

今後も手洗い・手指消毒、適切なマスクの使用、換気などの基本的な感染対策を励行し、予防に努めましょう。

【新型コロナウイルス感染症】

第4週の報告数は559人で、前週より44人多く、定点当たり報告数は7.99でした。地区別にみると、上五島地区（41.33）は他の地区より多くなっています。今後も動向に注意しましょう。

本疾患の主な症状は、発熱、咳、全身倦怠感等の感冒様症状で、主に飛沫感染や接触感染により感染します。場面に応じたマスクの着用や手洗い、換気、三密の回避などの基本的な感染対策に努めましょう。

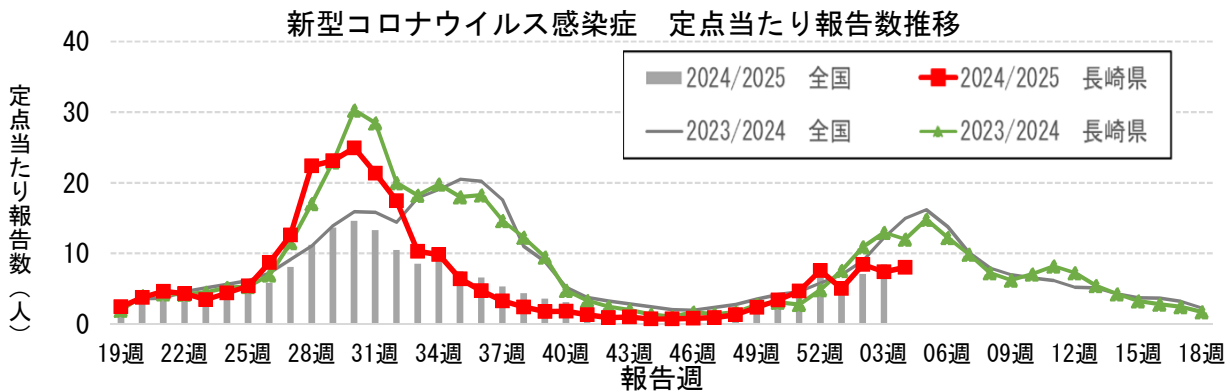
【感染性胃腸炎】

第4週の報告数は247人で、定点当たり報告数は5.61でした。地区別にみると県南地区（8.40）、県北地区（8.33）、佐世保地区（8.00）は他の地区より多くなっています。例年12月から1月に患者数が増加する傾向にあります。今後も動向に注意しましょう。

本疾患は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。原因はノロウイルスやロタウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診しましょう。

☆トピックス：新型コロナウイルス感染症に注意しましょう

新型コロナウイルス感染症の長崎県における第4週の定点当たり報告数は「7.99」でした。年代別にみると、10歳未満（20%）、10代（15%）が多くなっています。前年は12月から2月にかけて報告数の増加がみられましたので、引き続き注意が必要です。場面に応じたマスクの着用や手洗い、換気、三密の回避などの基本的な感染対策に努めましょう。

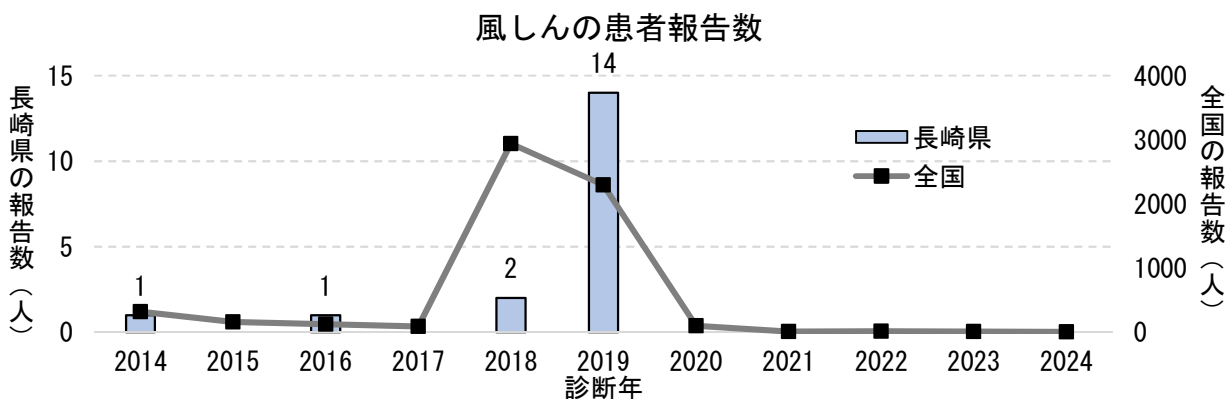


☆トピックス：2月4日は「風しんの日」です

風しんは、風しんウイルスによって引き起こされる、発熱、発疹、リンパ節腫脹を特徴とする発疹性感染症です。感染しても症状を示さない場合もありますが、成人で発症した場合、高熱や発疹が長く続いたり、関節痛を認めるなど、小児より重症化することがあります。また、風しんに対する免疫が不十分な妊娠20週頃までの妊婦が風しんウイルスに感染すると、先天性風しん症候群の子どもが生まれてくる可能性が高くなります。感染経路は飛沫感染で、風しんへの免疫がない集団において、1人の風しん患者から5～7人にうつす強い感染力を有します。

長崎県では、2020年以降患者の報告はなく、全国でも2020年以降は届出数が少ない状況が続いていますが、海外では患者発生の多い国もあり、注意が必要な感染症です。

予防には、ワクチン接種が有効です。特に、先天性風しん症候群の発生を防ぐために、妊婦や妊娠を希望している女性とそのパートナーの予防が重要です。十分な免疫を有しているか否かは抗体検査により知ることができます。抗体検査やワクチン接種を希望される場合には、医療機関に相談しましょう。



☆トピックス：インフルエンザが流行しています

2025年第4週は1,130人の報告があり、定点当たり報告数は16.14で、2週続けて減少しましたが、警報終息基準値「10.0」を上回っており、6週続けて警報レベルの報告数となっています。県内では、2024年第52週に、現行の調査が開始された1999年以降で最多となる、定点当たり報告数「82.27」となりました。

地区別にみると、五島地区を除くすべての地区で警報レベルの報告数となっています。

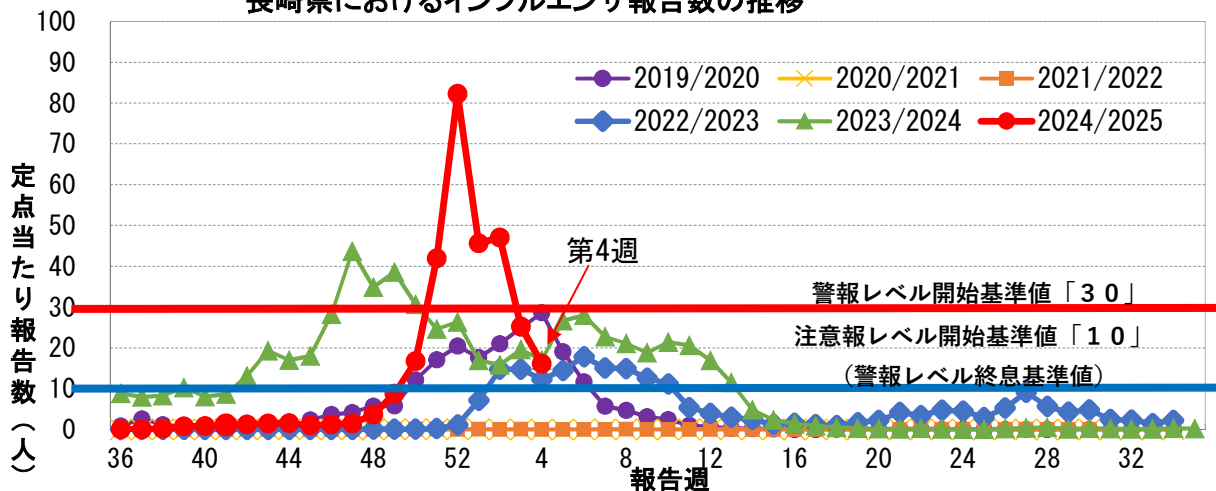
年代別では、10歳未満（50%）、10代（24%）が多くなっています。

また、長崎県環境保健研究センターにおいて、2024/2025シーズンに搬入された検体から、インフルエンザA/H1pdm09の遺伝子が多く検出されています。

今後も手洗いの励行、適切なマスクの使用、換気などの基本的な感染対策に努め、感染予防を心がけましょう。また、インフルエンザワクチンは、発症及び重症化を一定程度予防する効果があります。希望される方は、ワクチンを接種しましょう。

発生状況について、長崎県感染症情報センターホームページ内「インフルエンザ」にも掲載しています。

長崎県におけるインフルエンザ報告数の推移



インフルエンザの年代別患者報告数

	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上
報告数(人)	565	266	30	72	58	52	38	30	19
報告割合(%)	50.0	23.5	2.7	6.4	5.1	4.6	3.4	2.7	1.7

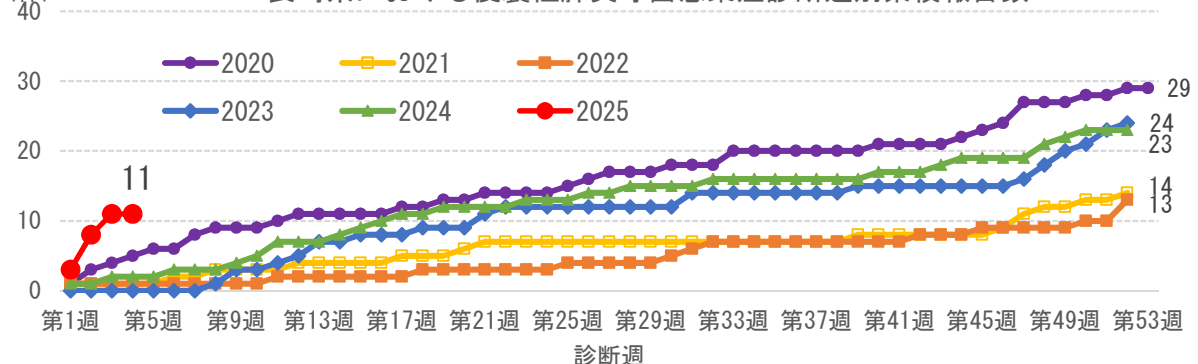
☆トピックス：侵襲性肺炎球菌感染症の報告が多くなっています

侵襲性肺炎球菌感染症の原因となる「肺炎球菌」は、多くの乳幼児が鼻咽頭に保菌しているといわれています。この菌が感染すると、肺炎や中耳炎、副鼻腔炎、髄膜炎などを引き起こします。小児および高齢者を中心とした発症が多く、成人の肺炎の約2、3割は肺炎球菌が原因といわれています。肺炎球菌による感染症のうち、血液や髄液などの通常では菌が存在しない部位から菌が検出された場合に「侵襲性肺炎球菌感染症」の報告対象となります。

長崎県では2025年第4週までに11件の報告があり、例年同時期より多くなっています。

感染経路は、接触感染および飛沫感染で、予防には手洗い・うがいやマスクの適切な使用などの基本的な感染対策が重要です。また、肺炎の発症・重症化予防に一定の効果のある、65歳の方などを対象にした定期接種のワクチンがあります。特に高齢の方や基礎疾患をお持ちの方は、感染予防に努めましょう。

長崎県における侵襲性肺炎球菌感染症診断週別累積報告数



◆全数届出の感染症

2類感染症：結核 患者 女性（80代以上・1名）

3類感染症：報告なし

4類感染症：報告なし

5類感染症(全数把握対象)：劇症型溶血性レンサ球菌感染症 患者 男性（50代・1名）
 水痘（入院例） 患者 男性（40代・1名）
 百日咳 患者 男性（10代・1名、70代・1名）

◆定点把握の対象となる5類感染症

(1) 疾病別・週別発生状況 (第51～4週、12/16～1/26)

疾 患 名	定 点 当 た り 患 者 数					
	51週	52週	1週	2週	3週	4週
	12/16～	12/23～	12/30～	1/6～	1/13～	1/20～
インフルエンザ	41.96	82.27	45.60	47.06	25.27	16.14
新型コロナウイルス感染症	4.64	7.56	5.01	8.41	7.36	7.99
RSウイルス感染症	0.05	0.09	0.05	0.23	0.11	0.18
咽頭結膜熱	0.14	0.30	0.07	0.34	0.20	0.25
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3.95	3.43	1.27	2.48	2.57	2.57
感染性胃腸炎	3.55	2.89	0.64	2.86	4.39	5.61
水痘	0.36	0.34	0.27	0.41	0.14	0.36
手足口病	0.43	0.30	0.14	0.23	0.23	0.16
伝染性紅斑（リンゴ病）	0.25	0.27	0.09	0.27	0.48	0.32
突発性発しん	0.32	0.34	0.07	0.14	0.23	0.23
ヘルパンギーナ	0.02	0.02				
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.02		0.05	0.02	0.05	0.02
急性出血性結膜炎	0.75	0.25	0.13	0.13	0.38	0.38
流行性角結膜炎	2.25	2.50	0.88	1.88	2.63	1.50
細菌性髄膜炎	0.08		0.08			
無菌性髄膜炎						0.08
マイコプラズマ肺炎	0.67	1.17	0.50	0.75	0.83	0.50
クラミジア肺炎（わん病は除く）						
感染性胃腸炎（ロタウイルス）		0.08	0.33			0.08

(2) 疾病別・保健所管内別発生状況 (第4週、1/20～1/26) ※赤字：警報レベル、青字：注意報レベル

疾 患 名	定 点 当 た り 患 者 数 (県 ・ 保 健 所 管 轄 別)										
	県	佐世保市	長崎市	壱岐	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	対馬
インフルエンザ	<u>16.14</u>	<u>17.00</u>	<u>18.82</u>	<u>10.00</u>	<u>13.00</u>	<u>13.45</u>	<u>16.63</u>	<u>32.50</u>	2.00	<u>15.67</u>	<u>16.33</u>
新型コロナウイルス感染症	7.99	4.27	5.71	7.33	5.50	8.18	5.50	11.50	2.50	41.33	15.33
RSウイルス感染症	0.18	0.17	0.20		0.25	0.14		1.00			
咽頭結膜熱	0.25	0.17	0.40			0.43	0.20	0.33	0.33		
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.57	1.83	1.20		1.00	2.43	<u>8.40</u>	4.00	1.67		5.00
感染性胃腸炎	5.61	8.00	7.00		3.75	6.71	8.40	8.33			
水痘	0.36	0.33	0.70		<u>1.25</u>			0.67			
手足口病	0.16	0.50	0.10					0.33		1.00	
伝染性紅斑（リンゴ病）	0.32	0.33	0.70		0.75						<u>1.00</u>
突発性発しん	0.23	0.17	0.40			0.57		0.33			
ヘルパンギーナ											
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.02		0.10								
急性出血性結膜炎	0.38						<u>3.00</u>				
流行性角結膜炎	1.50	1.00	1.00				<u>7.00</u>		1.00		
細菌性髄膜炎											
無菌性髄膜炎	0.08	1.00									
マイコプラズマ肺炎	0.50	1.00	1.00							2.00	
クラミジア肺炎（わん病は除く）											
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	0.08					1.00					